



AddPackageDependency Manual

by SparxSystems Japan

パッケージ間依存関係追加アドイン マニュアル

(2015/8/31 更新)



1. アドイン利用環境	3
2. 全機能共通仕様	3
2-1. 対応要素	3
2-2. 対応接続と向き	3
2-3. ダイアグラム上・プロジェクトブラウザ上の共通動作.....	3
3. 依存関係追加・削除機能 利用手順	4
3-1. パッケージ間への依存関係追加	4
3-2. パッケージ間の依存関係削除.....	7

1. アドイン利用環境

本アドインを利用するには、**.Net Framework** が必要となります。

2. 全機能共通仕様

本アドイン内のいくつかの機能において、用語や動作について機能によらず共通な仕様について説明します。

2-1. 対応要素

本アドインはパッケージが対象です。プロジェクトルートは対象外です。
(プロジェクトルートには接続の追加ができないため。)

2-2. 対応接続と向き

本アドインでは、接続を解析して情報を設定する機能がありますが、その際の接続の種類は「対象となるクラス要素間の接続種別」ダイアログに表示されている接続(関連や依存など)が対象となります。

また、接続の向きは接続を引いた際の接続元・接続先の情報を元にしてしています。接続の方向欄は向きの判定には利用していません。(例えば、方向欄で”双方向”を設定していても両方向とはみなしません。)

2-3. ダイアグラム上・プロジェクトブラウザ上の共通動作

本アドインは、ダイアグラム上でもプロジェクトブラウザ上でも実行できます。また、パッケージごとまたはクラス要素ごとに各機能を実行できます。

ダイアグラム上の共通動作：

ダイアグラム上で何も選択せずに本アドインを実行した場合は、ダイアグラム上の全要素を対象に機能を実行します。ダイアグラム上でいくつかの要素を選択した状態で機能を実行した場合の対象は機能によって異なります。

プロジェクトブラウザ上の共通動作：

プロジェクトブラウザ上では、パッケージを選択して本アドインを実行します。プロジェクトブラウザ上で要素やダイアグラムを選択して本アドインを実行することはできません。(この場合は、パッケージを選択することを促すメッセージが表示されます。)

また、機能を実行する際のオプション「子パッケージも再帰的に処理」を有効にした場合は、選択したパッケージを含む、そのパッケージ配下のすべてのパッケージを対象とします。「子パッケージも再

帰的に処理」が無効の場合は、選択したパッケージのみを対象とします。この場合に実行の種類がクラス要素である場合は、該当のパッケージ直下のクラス要素が対象になります。

以下は、上記内容をまとめた表になります。

表. 各機能実行時の対象範囲

アドイン実行時選択状態		依存関係追加		依存関係削除	
		自要素	相手要素 (以下の範囲で条件が揃っている要素に依存関係追加)	自要素	相手要素 (以下の範囲で条件が揃っている要素の依存関係削除)
ダイアグラム上	1つのみ選択	選択要素	プロジェクト内の要素	未対応※1	未対応※1
	いくつか選択	選択要素	同上	未対応※1	未対応※1
	何も選択していない状態	ダイアグラム上の要素	同上	ダイアグラム上の要素	プロジェクト内の要素かつ自要素が送信元
プロジェクトブラウザ上	パッケージを選択 「子パッケージも再帰的に処理」無効	選択パッケージ	同上	選択パッケージ	同上
	パッケージを選択 「子パッケージも再帰的に処理」有効	選択パッケージを含むそれ配下の全パッケージ	同上	選択パッケージを含むそれ配下の全パッケージ	同上

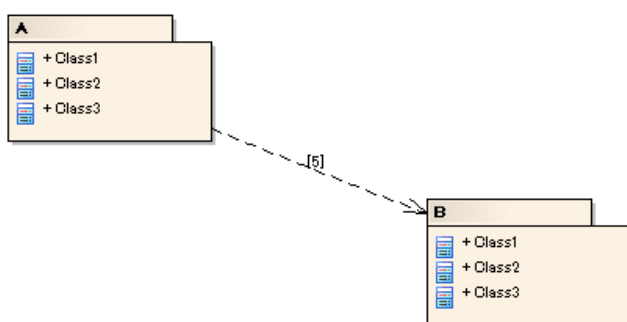
※ 1: 必ずダイアグラム上の全クラス要素または全パッケージが対象

3. 依存関係追加・削除機能 利用手順

依存関係のあるクラス要素間、またはパッケージ間に依存関係を追加します。

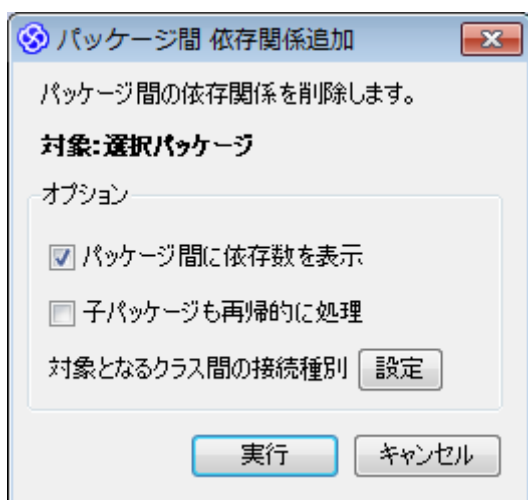
3-1. パッケージ間への依存関係追加

パッケージ配下のクラス要素同士に関係がある場合に、そのパッケージ間に依存関係を追加します。（自パッケージへの依存関係は追加しません。）。また、選択しているパッケージ配下の要素の接続をすべて確認し、プロジェクト内で依存しているまたは依存されているパッケージがあれば、方向に関わらず1度の実行でパッケージ間に依存関係を追加します。

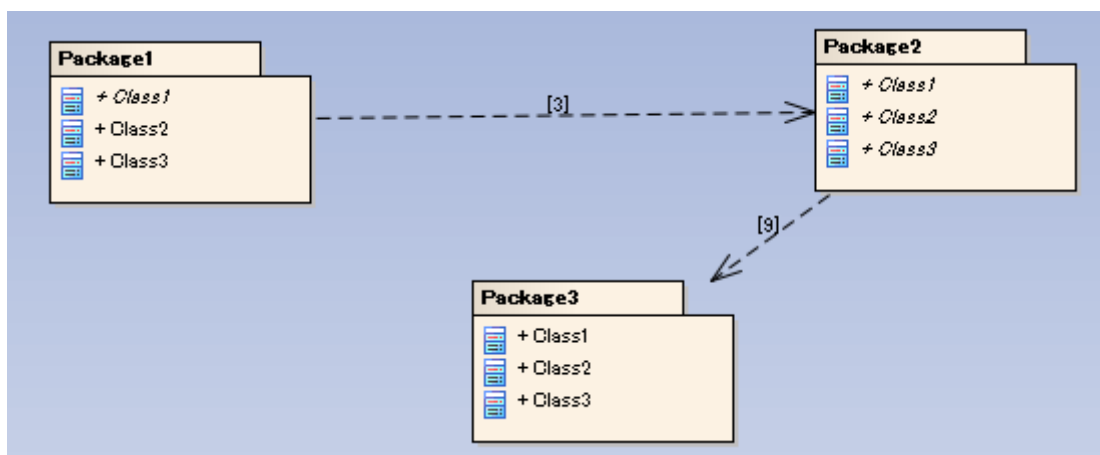


手順:

- 1) ダイアグラム上またはプロジェクト上で「アドイン・拡張」→「パッケージ間依存関係追加」→「依存関係追加」を実施します。
- 2) 「依存関係追加」画面が表示されるので「実行」ボタンを押してください。(ダイアグラム上で1つのパッケージのみ選択した場合は、このダイアログは表示されません。)



- 3) 実行中になりますので、しばらくお待ちください。
- 4) 実行が完了すると、パッケージ間に依存関係が設定されます。オプションによっては依存数が依存関係の名前として設定されます。

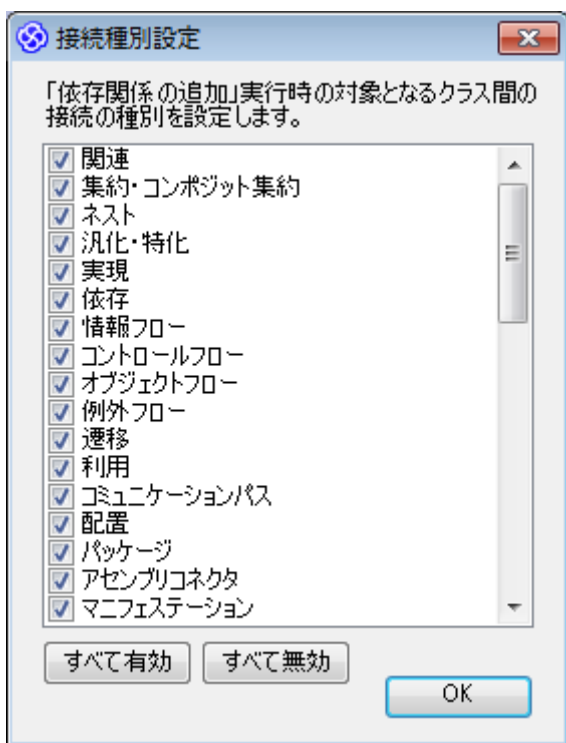


オプション:

- 「パッケージ間に依存数を追加」チェックボックス
クラス要素間の依存数をパッケージ間の接続名に設定します。

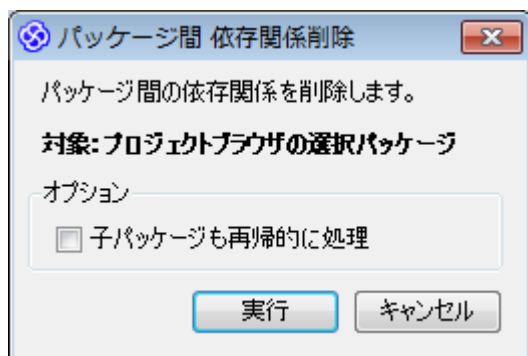
注意:すでにパッケージ間に依存関係があり、かつ接続名の最後に□が利用されている場合は、本アドインを利用すると、その□内を数値に変更します。

- 「子パッケージも再帰的に処理」チェックボックス
プロジェクトブラウザ上で選択したパッケージを含む、そのパッケージ配下のすべてのパッケージに依存関係を追加します。なお、子パッケージが他のパッケージと依存関係がある場合、その親パッケージと他のパッケージに依存関係を引くことはしていません。パッケージ配下(直下)の要素間に関係がある場合は、各パッケージ間にのみ依存関係を引きます。
- 「対象となるクラス要素間の接続種別」ボタン
依存関係の対象となるクラス要素間の接続の種類を限定できます。例えば、汎化の関係は対象から除きたい場合や、シーケンス図のメッセージは対象に含まない場合などに便利です。



3-2. パッケージ間の依存関係削除

パッケージ間の依存関係を一括削除します。ダイアグラム上またはプロジェクト上で「アドイン・拡張」→「パッケージ間依存関係追加」→「依存関係削除」を実施します。



モデル内の依存関係は、アドインにより追加されたのか、それとも手動で追加したのかは判断が付きません。このため、範囲内の依存関係はすべて削除します。

また、依存関係にステレオタイプが付加された接続も削除します。

なお、選択範囲（ダイアグラム上またはパッケージ）外に接続先の要素がある場合は、選択範囲内のパッケージが送信元の接続のみ削除します。また、パッケージ間以外の依存関係、自パッケージへの依存関係は削除しません。（依存関係追加機能の範囲外であるため。）

○ 改版履歴

2011/11/14 初版

2012/2/28 「依存関係追加・メトリクスアドイン」から分離し、「パッケージ間依存関係追加アドイン」として独立したのに
伴い、マニュアルも独立した部分のみ掲載するように改版。

2015/08/31 説明内容を一部修正。